



2019年3月期 第3四半期

# 決算概要

2019年2月8日  
株式会社アイ・ピー・エス  
証券コード 4390

## 決算概要

売上高：4,186百万円 営業利益：694百万円

## 事業概要

フィリピン国内にて通信事業を行うInifiniVANが堅調。  
医療・美容事業もレーシック手術件数が伸長。

## 業績予想

事業活動全般は、当初計画通り順調に進捗中。

# 1 | 2019年3月期第3四半期 決算概要

## 【2019年3月期 1Q-3Q 連結実績】

(百万円)

	2018年3月期 1Q-3Q	2019年3月期				
		1Q-3Q	進捗率	前年比	同期比率	通期予想
売上高	3,877	4,186	68.5%	308	108.0%	6,107
営業利益	628	694	75.3%	65	110.5%	921
経常利益	630	734	81.0%	103	116.5%	906
親会社株主に帰属する 当期純利益	409	446	80.4%	36	108.9%	555

### 2019年3月期第3四半期累計期間 実績分析

- 売上高：計画を下回ったものの、医療・美容事業等が引き続き好調に推移し、增收
- 営業利益：売上が伸長したことなどにより 前年同期比10.5%増
- 経常利益：営業外収益に為替差益57百万円を計上し、前年同期比16.5%増
- 親会社株主に帰属する当期純利益：前年同期比8.9%増

# 2019年3月期第3四半期累計 セグメント別決算概況



## ■海外通信事業

	2018/3 3Q	2019/3 3Q	前期比率	(単位：百万円)
売 上 高	1,160	1,154	99.5%	
営 業 利 益	418	379	90.7%	
利 益 率	36.1%	32.9%	—	

国際通信回線の提供帯域量は約6割拡大。しかしマニラ地区のCATV事業者の競争力強化を目的に行っている戦略的値下げが響き、売上・営業利益が減少。

## ■フィリピン国内通信事業

	2018/3 3Q	2019/3 3Q	前期比率	(単位：百万円)
売 上 高	24	240	994.3%	
営 業 利 益	▲86	2	—	
利 益 率	—	1.1%	—	

マニラ首都圏CBDでの法人向けサービスの提供数が順調に推移し、先行投資があったものの、この四半期で黒字化を達成。

# 2019年3月期第3四半期累計 セグメント別決算概況



## ■国内通信事業

	2018/3 3Q	2019/3 3Q	前期比率	(単位：百万円)
売 上 高	1,986	2,047	103.1%	
営 業 利 益	159	173	109.2%	
利 益 率	8.0%	8.5%	—	

MVNO事業者向けサービスの売上が減少したものの、秒課金サービスやコールセンター向けシステム等コールセンター関係サービスの増加により、売上・利益ともに増加。

## ■在留フィリピン人関連事業

	2018/3 3Q	2019/3 3Q	前期比率	(単位：百万円)
売 上 高	287	200	69.9%	
営 業 利 益	13	▲24	—	
利 益 率	4.6%	—	—	

厳しい採用環境の影響で人材の確保が難しく、人材派遣・職業紹介が減収・減益となっている。  
ジョブフェア（集団就職面接会）等新事業の拡大で、収益の改善を図っている。

# 2019年3月期第3四半期累計 セグメント別決算概況



## ■医療・美容事業

	2018/3 3Q	2019/3 3Q	前期比率	(単位：百万円)
売 上 高	418	542	129.5%	
當 業 利 益	123	162	131.7%	
利 益 率	29.4%	29.9%	—	

レーシック施術が好調に推移。デジタルマーケティングの強化による顧客層の拡大や、医療機器設備の増強を図り、売上・利益ともに大幅に増加。

## 2 | お問い合わせについてまして

この四半期の、経常利益・純利益がほとんど伸びなかつた理由

	2018年3月末	2018 1Q	2018 2Q	2018 3Q	
ドル円レート	106.27	110.54	113.58	110.91	(単位 円)
為替差益		85	70		(単位 百万円)
為替差損				98	(単位 百万円)
ドル資産	1,900	1,900	2,000	2,400	(単位 百万円)

当社はIRU（長期使用権リース）や外貨預金などで、米国ドル建て資産を有しております、その評価が四半期ごとになされ、為替損益が計上されます。

今回98百万円の為替差損が発生しており、経常利益などを押し下げております。

## 1. 海外通信事業の売上が2017年3Qと比較して減少した理由

### IRUの売上

(単位USドル)

2017年	Oct	Nov	Dec	合計
マニラ	363,916	351,089	373,417	1,088,422
地方	0	0	0	0
合計	363,916	351,089	373,417	1,088,422
2018年	Oct	Nov	Dec	合計
マニラ	270,077	254,781	193,104	717,962
地方	0	33,000	52,800	85,800
合計	270,077	287,781	245,904	803,762

IRUとは、長期の回線使用権のことです。

マニラ地域は、15年の使用権を提供し、3年で分割して売上を計上

地方案件は、10年の使用権を提供し、5年で分割して売上を計上

マニラ地域のIRUの売上計上が前期比で、26.2%減。減少を補う新たな契約の獲得が順調に進まず、海外通信事業の売上が減少

## 2. マニラ地域での海外通信事業の収益が、早期回復の見込みはあるのか。

### 現状

個人向けサービスは、ベストエフォート。

広告に掲載されている最高速度と実際のサービスとに差がありすぎる。

これは、大手2キャリアもCATVも同じ。

### 提案

CATVに、速度保証（3-5M）のあるブロードバンドサービスを提供

そのために帯域が必要 売上・収益とも増加見込

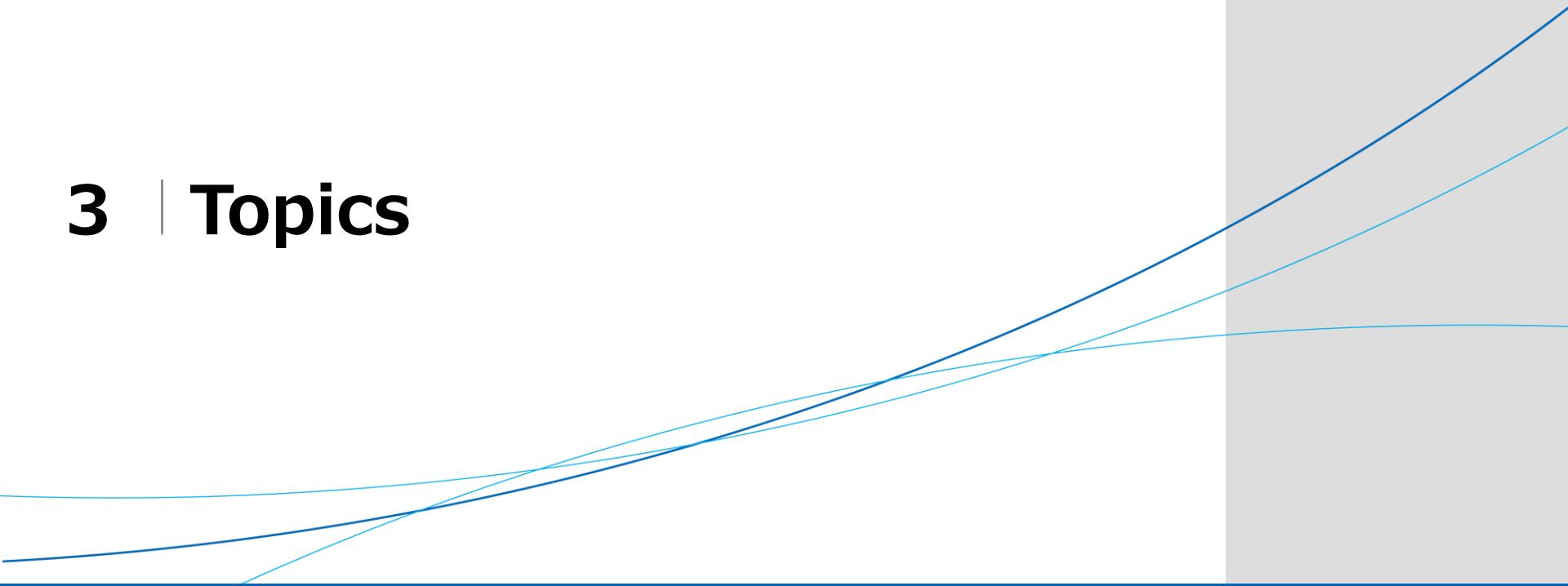
CATV事業者と高単価の新規エンドユーザー開拓で協業

今年1月、CATV事業者有志とホノルルで開催された通信事業者向けコンベンション（PTC）に参加。海外のCATVブロードバンド事業のトレンドを体感

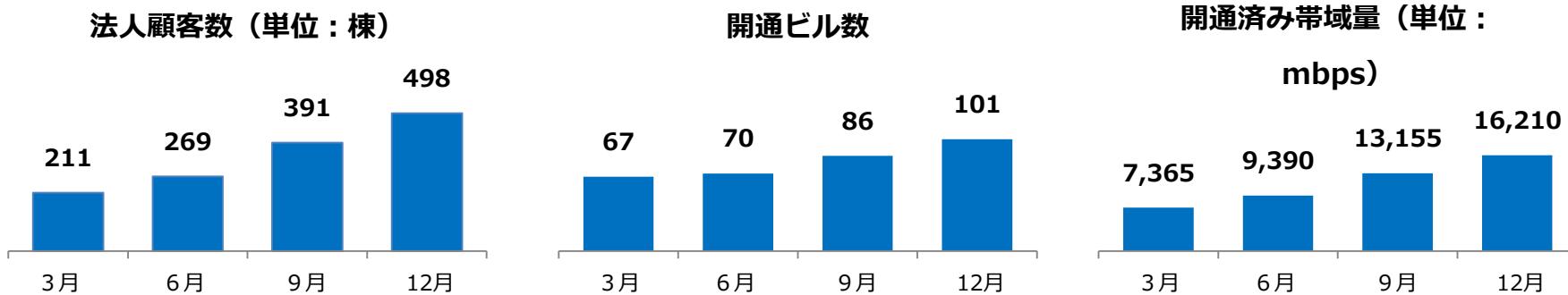
既に実績が出たCATVもあり、ケーススタディを用いて提案中

➡ マニラ地区については、4Qないし1Qには、収益が改善すると考えております。

# 3 | Topics



## マカティでの法人向けインターネットサービス事業の進捗状況



2018年12月末

開通したビル数・顧客数とも、順調に増加

12月はクリスマスの影響あり。後半申込が伸び悩み、工事完了できない案件があった。

2019年3月末

1月は、1,200Mの開通済み帯域量が追加される見込み。（申込では2,000M超）

回線調達の多様化と既に開通済みのビルのテナント開拓に注力。

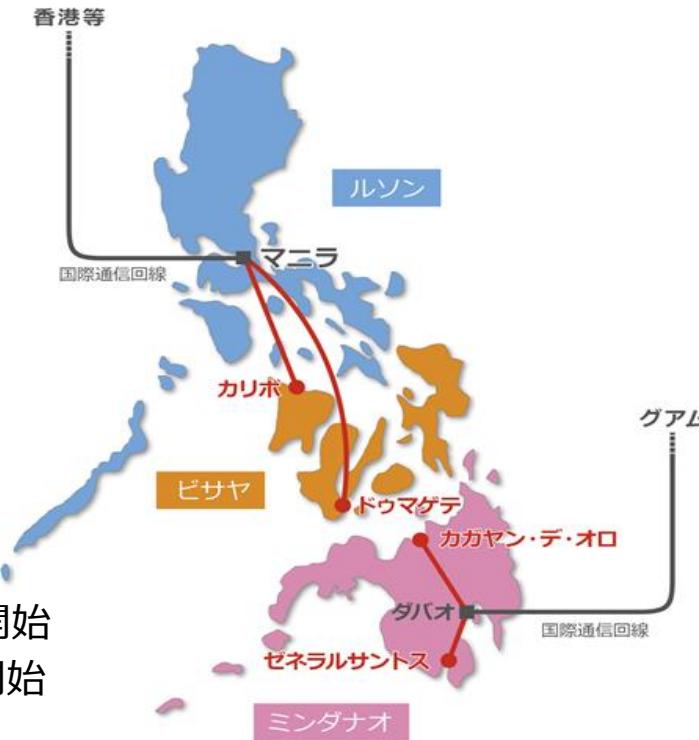
## 地方での事業展開

### 1) 契約事業者数推移

	2017・4Q	2018・1Q	2018・2Q	2018・3Q (確定)
マニラ首都圏・マニラ郊外	17	17	17	17
それ以外	3	3	3	7
合計	20	20	20	24

### 2) 第3Qのビサヤ・ミンダナオ地域の実績

- ①カリボ2事業者（2018年11月引渡済）11月・12月課金開始
- ②カガヤンデオーロ（契約済 2019年1月引渡）1月課金開始
- ③ジェネラルサントス（契約済 2019年3月引渡予定）
- ④ドウマゲテ（契約済 2019年3月引渡予定）



## 3) ミンダナオ島内回線の敷設・リース

InfiniVAN社は、ダバオ市とジェネラルサントス市を結ぶ回線を敷設。昨年12月に最大手CATV事業者に長期リースをいたしました。この4Qでは、コタバト市のCATV事業者とも接続。沿線のCATV事業者に対して、現在提案を行っております。

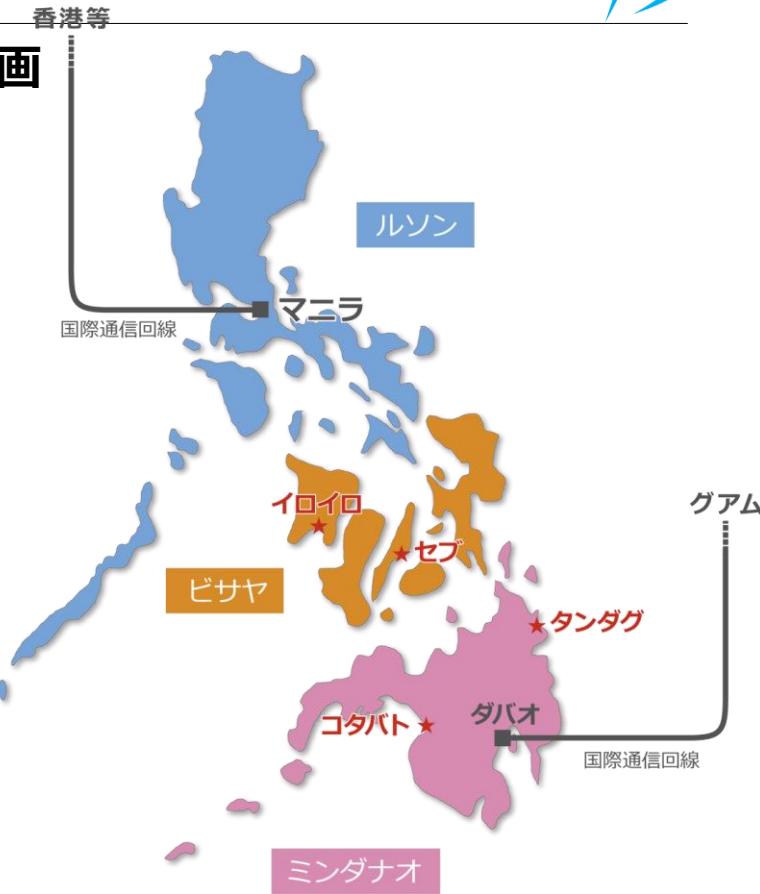


- InfiniVAN回線
- お客様(CATV&WiFi事業者)回線
- お客様(CATV&WiFi事業者)新規開設回線

# 海外通信事業の進捗

## 4) 第4Qのビサヤ・ミンダナオ地域の新規開通計画

- 1) タンタグ（ミンダナオ） 契約済  
⇒回線がないため近くの都市から敷設  
5月開通予定
- 2) ダバオ（ミンダナオ） 契約済 3月開通予定
- 3) イロイロ（ビサヤ） 回線手配中
- 4) セブ（ビサヤ） 条件交渉中
- 5) コタバト（ミンダナオ） お客様が回線を敷設中



## 1 | 通信回線設備の構築とリース

- 1) 従来の電力会社の電柱によるネットワーク拡張が、難しくなっている。
- 2) 当社海外通信案件の引き合いが多いのは、大手事業者が高速伝送設備を設置していない地域。  
⇒ 全国で安定したネットワークの需要が大きくなっています。



複数の事業者が共用している電柱の様子



ヤシの木を電柱代わりに使っている大手通信事業者の例

## 2 鉄道設備への回線敷設

2018年12月 マニラ市内と郊外を結ぶ高架鉄道 LRT2号線に、InfiniVAN, Inc.の回線設備を敷設

- ① 最大手CATV事業者に対して、光ファイバーを20年間リース（2019年1月リース開始）
- ② 大手2キャリアを含む他の通信事業者に対して、回線敷設のためのダクトを長期リース（連結収支への影響は、2019年4月以降）

他の鉄道・幹線道路などに同様の需要があり、商談中



敷設工事の様子



右側のダクトを敷設

## 3 ルソン島北部回線

2019年2月、InfiniVAN, Inc.は、マカティ市から、オロンガボ市までの回線敷設工事が終了いたしました。

2019年第2四半期で売上の期ずれを招いた案件は、この回線を利用する予定開通により、3月にお客様に回線を引渡す予定。

この回線の開通により、新たに3つの州で、自社サービスを提供できるようになります。海外通信部門は、沿線の各社に対して、改めて提案を開始しております。



## 1 法人向けブロードバンドサービス

法人向けブロードバンドサービスは、ストックビジネスとして、順調に伸長

InfiniVAN社 法人営業部 部門収支

単位 千フィリピンペソ

期間	2018 1-3	2018 4-6	2018 7-9	2018 10-12
売上	15,690	20,390	24,945	33,353
営業利益	-303	3,828	10,631	15,843
営業利益率	-2%	19%	43%	48%

上記数字は、監査前の数字。第3四半期の決算では、2018 7-9の数字が取込まれております。

## 2 インフラストラクチャープロジェクト

### ① 鉄道を利用した回線敷設

LRT（ライトレール）などの鉄道設備への回線敷設を進めます。

### ② ミンダナオでの回線敷設

ブツアンータンガグ間など、今話題のミンダナオ地域で通信インフラ提供を行います。



回線敷設作業（ミンダナオ島）

会社名  
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス  
IPS, Inc.

設立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

在留フィリピン人関連事業：日本国内での在留外国人向け求人サービスの提供など

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

連結子会社(特定子会社)

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

- 本書には、当社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1  
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331